

1 学校教育目標 たくましく生きる力と豊かな心を持つ生徒の育成
------------------------------------

総括的な教育目標を、より具体的な児童生徒や教師、学校の「姿」としてイメージする

2 学校経営ビジョン 《目指す学校像》「探求」「礼儀」「忍耐」を基盤にした学校	
《目指す生徒像》 1 考えて行動する生徒 2 礼儀正しい生徒 3 健康な生徒	《目指す教師像》 1 情熱あふれる教師 2 研修に励む教師 3 健康な教師

このうち、特に今年度力を入れるものを絞り込む  
絞り込むに当たって、特に、前年度、「何ができて、何ができなかったか」を参考にする

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>1 基礎学力の定着を図る教育を推進する。</li> <li>2 規範意識を養い、豊かな感性を育む心の教育を推進する。</li> <li>3 生徒理解に徹した生徒指導を推進する。</li> <li>4 安全・安心な教育環境の整備を推進する。</li> </ul>	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営、教育活動及び特定課題においても、評価項目は適正でありほとんどの部分で概ね達成できた。また、生徒・保護者アンケート及び学校関係者評価でも回を追うごとに概ね良好の評価を得ている。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の組織としての更なる連携・協力</li> <li>・学力向上に関しての生徒・保護者の意欲・意識の向上</li> <li>・小中連携を進め、小中一貫した学習習慣の定着を図ると共に、現状を分析し、個に応じた指導方法の更なる工夫</li> <li>・豊かな感性をはぐくむ教育の推進、特に小中連携及びSCを中心とした校内体制づくり</li> </ul>

絞り込んだ重点目標の成果や課題を具体的に評価するためには、どのような項目や指標を盛り込むべきかを考える

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	●学校経営方針	学校教育目標、目指す学校像、目指す生徒像、本年度の重点目標の周知	教職員、生徒、保護者、地域への周知を図る。周知率85%以上にする。	B 周知率は、教職員90%、保護者80%、生徒70%であり生徒への周知率を上げることができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目指す生徒像」や「目指す教師像」の表現を簡易にすることで誰にでも覚えやすく、わかりやすいように工夫する。</li> <li>・職員会議、全校集会で説明する。</li> <li>・青友会総会時に学校長より直接保護者に説明する。</li> <li>・学校便り、保護者会、HP、掲示物等で機会あることに知らせ、周知徹底を図る。</li> </ul>	学校の経営目標やビジョンについては、職員と保護者には十分周知できていると考えるが、今年度は生徒への周知が十分ではなかった。これは、これまで機会あることに話していたことが、今年度はやや少なかった。もう一度、原点に戻り、機会あることに話をしていくように心掛ける。
	○教職員の資質向上	教職員の資質の向上	教職員の資質の向上を図る。特に校内研究の充実を図り、力量を高める。	B 校内研修計画に基づいて研究授業を行い、研鑽を行った。ICT教育を見据え講師を招聘した研修会を実施した。職員のセンター研への意識は昨年度よりやや低くなった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究の取り組みの工夫をする。</li> <li>・教育センター研修や研究発表校参観等様々な研修の機会を紹介し、職員が進んで研修に励む雰囲気作りを勧める。</li> <li>・研修の重要性を把握し、自己研鑽のために自主的に受講させる。</li> <li>・ICT支援員を活用し、授業でのICT活用を推進する。</li> <li>・小中合同の職員の研修会を持つ。</li> </ul>	校内研では、「主体的に学習に取り組む生徒の育成」という主題で、特に基礎基本の定着・確かな学力の向上に重点を置いて取り組んだ。生徒の実態分析から、改善案を計画し、学校、家庭、個々の教師でどうあるべきかを考え取り組んだ。研究授業者は3名が行なった。また、教育センターから講師を招いてのICT活用の研修を深めることができた。ただ、職員の教育センター短期研修率は90%であった。
	○危機管理体制の整備	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルをもとに、職員の危機意識を高める。また、訓練を通し生徒の危機意識を高める。	A 危機管理マニュアルの活用は職員は89%がプラス評価であった。生徒の87%、保護者の83%がプラス評価である。避難訓練の実施は年2回であった。また、地震対応避難訓練も実施できた。安全点検簿の提出状況が少し良くなった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度県の企画経営部より提示された安全管理の手引きを参考に本校の実態に応じた危機管理マニュアルを作成する。</li> <li>・年二回以上の防災・避難等訓練を実施する。</li> <li>・学級活動、全校集会等機会あることに生徒に対する安全指導を行う。</li> <li>・安全点検を定期的(月1回)、随時に実施し、不備な箇所等があれば早期に改善する。</li> </ul>	本校の実態に即した危機管理マニュアルの改訂ができた。また、防災・避難訓練は2回実施し、うち1回は不審者対応の訓練を講師を招いて行うこともでき、職員への実技指導もできた。さらには、机の下避難と講話ではあったが地震対策の避難訓練も実施できた。安全点検に関しては、昨年度より提出状況は良くなったが、やはり忘れる職員も多いため。もう少し呼びかけを行う必要があるし、点検簿の記入方法の工夫も考えたい。
教育活動	●学力向上	個に応じた指導・わかる授業に向けた指導方法の工夫改善 家庭学習の定着	県の学習状況調査等において、前年度平均を上回る。課題の与え方の工夫。地区基礎学力テストでの合格率80%を達成する。	B 職員は少しでも学力が上がるよう指導法を工夫している。生徒の65%、保護者の78%が授業にその効果があると感じていると答えている。ただ1・2年生とも前年と比較し、平均の県との差が縮まっていない。唐津地区基礎学力テストも合格率80%までにはいたっていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に取り組む雰囲気づくりを高めるため学習規律を定着させる。</li> <li>・校内研究と関連させ全員参加のテーマを持った授業研究会を行う。</li> <li>・教科における基礎的・基本的な内容を明確にするとともに生徒の実態にあった学習指導のあり方を工夫する。</li> <li>・地区の基礎学力テストを利用し、学習意欲の向上と習慣化を進める。</li> </ul>	各教科、各学年担任がそれぞれの教科・学級で学習規律を定着させるための工夫に取り組んだ。また、あいさつや宿題の提出などは全体で徹底して取り組んだ。ただ、予定していた授業研究は十分にできなかった。教師の取り組みにもムラが見られた。
	●心の教育	道徳の時間の充実 読書の充実 ボランティア活動の充実	学校公開や授業参観等で積極的に道徳授業を公開する。朝読書の充実、ボランティア活動の充実を推進する。	A 授業参観日に全学級で道徳授業を公開した。また、町の教育研究会でも1回の公開授業研究会を実施した。また、ボランティア活動につながるエコ・リサイクル活動で多くの表彰を受けた。ただ、生徒の74%、保護者の76%が心の教育の実践にプラス評価であり昨年と変わりがなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業を必ず1回以上授業参観で行う。</li> <li>・道徳の授業では特に自他の生命尊重や人間としての生き方を考えることを中心にすすめる。</li> <li>・生徒会活動、特にそのボランティア活動を通して人に対する思いやりの心と奉心を育む。</li> <li>・自ら計画したことを確実に実行し、その結果が他にいい影響を与えることを知ることで自尊感情の高揚を図る。</li> <li>・朝の時間等での読書活動を推進し、豊かな心の醸成を図る。</li> </ul>	各学年ともふれあい道徳などの参観授業においては「自他の生命尊重」と「人間の生き方」を中心に授業を進めることができた。また、町の教育研究会では公開授業研究会も実施できた。学校全体、特に生徒会を中心としたボランティア活動でこれまでの活動実績から善行児童生徒表彰を受けることができた。

●健康・体力づくり	「生きる力」を育むための、体育・食育の推進	知育・徳育・体育・食育のバランスのとれた人間を目指して指導を行う。自主的な体力作りの推進。自己健康管理が出来るようにする。	A	職員意識は健康面の配慮90%、組織的な健康づくり85%ができていたと答えている。食育の授業研を実施することができた。	・給食指導を行うことから食事のマナーや食べ物を大切に育む。牛乳残しや残菜をなくす。 ・食育の授業を計画的に取り入れ、食と生活との関わり、命と健康に対する意識を高める。 ・保健だよりや集会等を通じ、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを伝える。 ・部活動を推進し、健康推進をはじめ、人格形成や人間関係の構築等も視野に入れて指導を行う。また、それに伴い体位・体力の向上を図り、欠席者の減少を図る。	部活動にはほとんど全員参加できている。顧問も熱心に指導している。欠席・遅刻も後半に入りずいぶん改善できた。また、食育についても栄養教諭の配置により、今年度はかなり計画通りに進めることができた。
○生徒指導	生徒指導の充実	生徒指導についての共通理解、共通実践をする。記録を残し次年度に活かす。基本的生活習慣の定着を図る。	A	職員の89%が問題行動やいじめ等に対応できていると答えている。また、実際問題行動も起きていない。問題行動に対する適切な行動もできていると考えている。	・生徒一人一人の特性に応じた声かけ等を行い、生徒との信頼関係を深める。(レポートの形成) ・毎週の職員朝会及び毎月の生徒指導協議会で情報交換を行い、その都度対策を協議する。 ・職員一同が共通意識のもと共通理解・共通実践で取り組む。 ・家庭連絡帳等を利用して、家庭との緊密な連携をとることで基本的生活習慣の定着を意識づける。 ・遅刻を無くし、大きな声であいさつができるような朝の当番指導を実施する。	どの職員も生徒に声をかけるように努めた。また、朝のあいさつ運動に校長、教頭、生徒指導担当を中心に参加し、あいさつと服装身なりの指導を継続して行った。特に今年度はあいさつの仕方から指導に力を注いだ。生徒指導協議会ばかりでなく必要に応じて職員を招集し協議を行った。小中連携は本年度はその必要性を確認したが実際に中学校区の小学校と連携し、充実した研修を実施できたのは1度だけだった。
	教育相談の充実	個に応じた指導を心がけ、不登校生徒数が発生しないよう努力する。	B	定期的な教育相談はもとより、折にふれ様々な先生方が教育相談に関わった。不登校生徒は発生しなかったが前年度より良くなったともいえない。	・教育相談のアンケート等の結果を活用しながら、定期教育相談を充実させ、特に個別対話を重視し実践する。 ・定期的に教育相談部会を設定し、常に生徒の状態を全職員が把握できるようにする。 ・SCの積極的な活用を図る。 ・町の支援センターと情報を密にし、不登校生徒が出ないような予防的措置を図る。	観察やアンケートを利用し、定期的な教育相談・チャンス教育相談を行ってきたが、やや先生方一人一人の取り組みにムラがあり、充実した取り組みができたとは言えない。
○生徒会活動	生徒会活動の充実	全校生徒が学校への所属感を持ち、主体的に生徒会活動に取り組む。	B	ボランティア活動については生徒会を中心にかなり充実した活動ができたが主体的な部分では先生方の関わりが中心でもう少し主体性を育てる必要がある。	・組織の充実を図り、計画的に実践的な取り組みを図る。 ・縦割グループでの活動を広め、実践力をつける。 ・毎月のアルミ缶回収活動や牛乳パック回収活動をさらに全校の活動になるよう工夫し行う。	生徒会を中心に各専門部ごとにボランティア活動を意識した内容の活動を行っている。今年は、従来の空き缶回収や牛乳パック回収に加え、ペットボトルの蓋の回収も行った。ただ、生徒会・生徒自身の活動としての自主性ではもっと積極的にあつてほしい。
特定課題	●特別支援教育	特別支援教育体制の確立	B	対象生徒の支援に関する情報交換会を実施したり、支援計画の作成を実施したが、全職員での研修が十分にはできなかった。	・教育支援計画に基づき、必要に応じ関係機関と連携し、学校全体で支援を行う。 ・特別支援だけに絞った研修会を実施し、職員全体の意識化と共通理解を図る。	特別支援教育体制の確立という点では学校全体で取り組む体制はかなり出来上がったが、細かい部分ではまだまだ改善する部分が多い。
	●中1英・数の学習環境の改善充実(少人数指導・T・T指導)	数学・英語で全学年の少人数、TT学習実施とその充実	C	前年度に比べ1年生も2年生も特にポイントが高くなった項目がなかった。特に数学では用語・やり方・作図等の基本的な事項の定着が不十分である。また、英語では理解・表現の力が県よりもかなり低いポイントであったが、いずれにしろほとんどの観点で概ね県平均を下回った。	基本的な学習習慣を身につけさせ、個に応じた指導方法の工夫に努める。 習熟度別少人数学習やT・T指導を行う。 アンダーアチーバー等の生徒については、個別支援を放課後及び長期休業等を利用して行う。	今年度ばかりでなく昨年度よりは基本的な学習習慣を身につけさせるため放課後や夏休みや冬休みなどの個に応じた指導も行ってきた。数学においては習熟度別少人数学習を英語ではT・T指導を実施し学習の定着を図ってきた。しかし、今回の学習状況テストではその成果はほとんど見られなかった。この状況を踏まえ、分析し、どこが不足し、どのような工夫が必要か検証していく必要がある。

評価結果を踏まえて、「何ができて、何ができなかったのか」を考える  
特に、C、D評価はもとより、A、B評価も、「評価項目として適切だったのか」は吟味の余地がある

6 総合評価	<p>・学校の現状、生徒や地域の実態、昨年度の課題等を考えた場合、今年度の評価項目については適正だったと考える。評価はAが3項目、Bが4項目、Cが1項目となり、前年度とほぼ変わらないが、昨年度より少し低い評価項目も出ている。生徒や保護者、教職員の学校評価アンケートでも、今年度の取り組みは前年度よりやや低い評価が多かった。</p> <p>・それぞれの項目を細かく見ると、学校運営に関しては組織とともう少し連携・協力(特に継続した形)が必要だった。特に、校内研の充実という部分で教職員の意識を高め、研修意欲の高揚につながる取り組みができていなかったことが反省点としてあげられる。教育活動に関して「心の教育」では、全体評価は昨年同様高いものであり、公開授業・参観授業等を行い、数々の表彰等を受け、生徒の自尊意識も高まりを見せ、来年度以降も更なる積極的な方向への足がかりとなった。反面、「学力向上」では保護者や生徒の意識としてはその意識が高まりを見せているにもかかわらず、結果として県平均を上回るものを出すことができなかった。生徒理解に徹した生徒指導推進や食育推進は昨年度同様に高い評価が得られ、昨年に比べ欠席者も減少し、問題行動も発生しなかった。また、生徒会活動でもまだまだ主体的という点では不十分ではあるが、昨年来からかなり積極的に活動できるようになった。特定課題に関しては中1英数学学習環境改善の結果が出ていないことが最大の課題点である。生徒の自己評価は悪いものではなく、教師も細やかに取り組んでいると考えているだけに現状分析からしっかりと考えていく必要がある。</p> <p>・今年度の本校の重点項目である「基礎学力の定着を図る教育推進」「規範意識を養い、豊かな感性を育む心の教育推進」「生徒理解に徹した生徒指導推進」「安全・安心な教育環境の整備を推進する。」については、それぞれの項目ごとに取り組みを充実させてきたが、「基礎学力の定着を図る教育推進」の部分が結果としてなかなか表れてこない点を何とかしていきたいと考える。ただ、いずれにしろ四つの項目は関連があり、研究主任、生徒指導主事・教育相談担当、道徳主任、安全担当主任等を中心としてさらなる連携・協働を図らねばならない。</p>
--------	---

「できなかった」点について、次年度以降の具体策を検討する  
「できなかった」こと自体よりも、改善策を見出せるかが重要である

7 来年度の改善策	<p>・学校教育目標や目指す生徒像などの生徒への周知のあり方を考え、工夫していく。</p> <p>・校内研究・生徒指導をはじめとした各指導部の活動が計画的、円滑かつ確実に進められるよう担当職員、分掌のあり方、分担等を検討し、点検・指導していく必要がある。</p> <p>・「基礎学力の定着」を図るために、校内研究のありかたの見直しが必要である。また、教科ごとのむらを小さくできるよう、特にコミュニケーション力を高める工夫及び読解力や表現力を取り入れた指導方法の研究開発を進めていくとともに、これまで以上に保護者への学習習慣の改善の呼び掛けを進めていきたい。</p> <p>・生徒会活動の充実はもちろん主体的・自主的な活動ができるよう指導体制の充実をはかる。</p> <p>・来年度は、玄海町の教育を考える上で今年度以上に小中連携の視点での各学校の取り組みが求められる。今年度は、小中の教職員が校種の枠を超え、ともに研修に努め、協力体制の確立するスタートの年となったが、共通テーマとして学習面・生活面でそれぞれ「宿題等提出物の期日内提出の徹底」、「きちんと止まって挨拶を！」が提案され、それぞれ取り組みが行われ一定の成果がみられた。来年度はさらにこれまでかなりの部分手詰まりであった小中学校間の文化の違いに関する認識等の課題も取り組むことが可能になってくるであろう。</p>
-----------	--

●は共通評価項目、○は独自評価項目